年頭のご挨拶

（一社）山梨県自動車整備振興会会長
山梨県自動車整備商工組合理事長
荻　原　公　明

平成２８年の年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年の我が国の経済状況は政府の経済対策により、一部では緩やかな回復基調が続いていますが、地方においては一昨年４月の消費税引き上げの反動などもあり、未だに経済回復基調には至っておりません。

山梨県における自動車保有台数は平成27年10月末で755,531台､前年同期に比べ4,399台の増加、また､平成27年11月末(直近1年間)の車検台数は283,757台で前年同期に比べ14,605台の増加となっております｡一方、定期点検整備実施率については未だに低迷しております。

このような中、技術の進歩と環境や安全意識の高まりから燃費性能の向上したＨＶ車、ＥＶ車等の次世代車や衝突被害軽減ブレーキ等の安全運転支援機能を搭載した自動車が普及するとともに電子制御技術により内燃機関の究極までの効率化と電動化が進み環境性能が著しく向上するなど、これら自動車の新技術への対応や若年労働力減少による整備士不足等人材確保などが喫緊の課題となっております。

本年も業界の取り組むべき課題の解決に向けた努力が求められます。

業界活性化対策としては､「整備業のビジョンⅡ」の周知と更なる浸透を図り、ユーザー向け説明資料の活用を通じ、事業者による効果的取り組みに寄与するなど確実な点検整備の実施と入庫促進に努めます。また「自動車点検整備推進運動」の積極的推進や自動車検査証備考欄に記載されている点検整備実施状況等について引き続きユーザーへの周知活動を行うなど定期点検整備実施率向上に取り組んで参ります。

技術対策としては、急速に進む自動車の新技術に対応するため、整備技術向上研修やスキャンツール活用研修等の更なる充実を図り、高度な技術の習得や技術レベルの向上などに努めるとともに、スキャンツール認定店の普及を進め、併せて整備技術情報提供システムＦＡＩＮＥＳの有効活用にも努めて参ります。

整備士の人材確保につきましては、引き続き運輸支局と連携を図り、高校訪問活動や職場体験への支援等、若年労働力の確保に向け取り組んで参ります。

平成２９年導入予定の継続検査等におけるＯＳＳ化（ワンストップサービス）の動向にも注視し、関係機関からの情報収集に努める等、円滑な導入に向けた取組みを行って参ります。

また、自動車関係諸税につきましては整備議員連盟を通じ、ユーザーの過度な負担とならないよう抜本的見直しの要請を行うとともに、その状況等について情報提供して参ります。

商工組合につきましては引き続き予備検査場の適正管理と機器等の精度維持に努め、組合員の利便性向上と利用促進を図り、併せてスケールメリットを生かした商品の提供も行います。

今後とも業界の発展と会員・組合員の経営基盤の強化に繋がるべく事業運営に努めて参ります。

皆様方のより一層のご理解・ご協力を賜るようお願い申し上げます。

最後に、関係ご当局、関係機関のご指導とご協力を賜りますとともに、皆様のご発展を心よりご祈念申し上げ、年頭のご挨拶とさせて頂きます。

平成２８年　年頭の辞

関東運輸局山梨運輸支局
支局長　五 十 嵐 康 夫

新年明けましておめでとうございます。

平成２８年年頭にあたり新春のご挨拶を申し上げます。

昨年を振り返りますと、まずは１０月に山梨県韮崎市出身の大村智北里大学特別栄誉教授がノーベル医学・生理学賞を受賞され全国的にも大きな話題となりました。永年にわたって研究された成果が社会の発展に大きく貢献し世界に認められたものですが、山梨県出身者のノーベル賞受賞は初めてであるとともに、山梨県の知名度向上にもつながったことから山梨県民にとって大きな喜びと誇りになりました。

また、昨年は訪日外国人旅行者数が過去最高を記録するなか、世界文化遺産に登録された富士山効果の持続により、山梨県を訪れる外国人旅行者も右肩上がりで増え続けていると聞いております。さらに、勝沼地区のワイナリーが女性の観光客を中心に人気を集めているほか、２０２７年に開業予定のリニア中央新幹線の工事も県内において着工されることとなり、リニア新幹線に対する関心もこれまで以上に高まり、リニア見学施設来訪者の増加など今後益々、観光も含めた山梨県内の経済振興にも大きく期待できるものと思われます。

こうした中、交通を取り巻く昨今の我が国の経済社会情勢は、環境問題への対応、地方における過疎化、少子高齢化等の課題が山積しており、社会全体が大きな変革期にあります。運輸関係事業においては、各業界とも安全・安心を第一に、利便性の向上等、将来の発展にご尽力いただいているところですが、山梨運輸支局としましても交通の安全・安心の確保に向け、安全対策及び事故防止の徹底に取り組んでまいります。

整備関係につきましては、安全で環境にやさしい車社会の構築に向けて様々な施策が講じられていますが、基本は自動車ユーザーの自己責任に基づく適切な維持管理であり、ユーザーを支援する立場である自動車整備事業の役割は非常に重要なものとなっています。山梨運輸支局としましても、関係者の皆様の協力を頂き、本年も「自動車点検整備推進運動」、「不正改造車を排除する運動」等により点検・整備の必要性や不正改造の防止について、自動車ユーザー等にご理解いただけるよう、引き続き積極的に取り組んでまいります。

自動車整備事業における関係法令違反等の不正行為防止の徹底を図るため、引き続き各種研修会等の機会を通じて適正な業務運営等について指導してまいりますが、関係法令違反等については、厳正な行政処分を行い、法令遵守の徹底に努めてまいります。

また、自動車整備士の人材確保対策については、高校訪問を通じて引き続き積極的に対応を図ってまいります。

自動車の検査につきましては、自動車に導入される技術が高度化されている現在、それらの性能が使用過程において適切に維持・管理されていることが重要であることから自動車検査独立行政法人と連携を図りながら IT 化等による自動車検査の高度化を実施し、受検者に対し不合格内容を的確に情報提供しております。また、昨年１２月からは２輪車専用コースも使用することにより、さらなる質の高い利用者サービスの提供に努めると共に、継続検査等の受付業務を適切に行うなど、今後も窓口業務の適正かつ効率化を図ってまいります。なお、ＯＳＳの一環として昨年４月から導入された継続検査更新時の自動車税の納税電子確認にあっては、未実施の自治体も残すところ二県のみとなり、申請者の利便の向上が図られております。

また、街頭検査においては不正改造車及び不正軽油の使用等悪質な違反者に対しては、整備命令書の交付など積極的な排除に取り組んでまいります。

以上、新年を迎えるにあたり、山梨運輸支局としての主要施策と所感の一端を申し上げましたが、当支局では職員全員が一丸となって、山梨県の観光の推進、交通の安心・安全のため、また、自動車関係業界等の活性化のために国土交通行政を推進してまいりますので、今後も引き続き皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げまして、新年の挨拶とさせていただきます。

新 年 の ご 挨 拶

軽自動車検査協会　山梨事務所
所　長　日　原　照　幸

新年明けましておめでとうございます。

平成 28 年の新春を迎えるにあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

平素は、軽自動車検査協会の業務運営に対しまして、ご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年は、10 月から 12 月に掛けて検査コース見学者通路設置工事を行いました。

工事期間中は皆様にご不便とご迷惑をお掛けいたしました。年内の工事を無事に終了することができました。誠にありがとうございました。

なお、２７年度中の完成を目途に工事を行ってまいります。引き続きご理解の程、よろしくお願いいたします。

さて、軽自動車は、低燃費、経済性、新技術を装備して安全性能を向上した車両を導入するなどして、新車の販売台数は順調に推移してまいりました。山梨県の軽自動車新車販売台数は昨年 4 月の軽自動車税増税の影響を受け、歴年（1 月～11 月期）で見てみますと、15,675 台（対前年比－2,186 台（－12%））と減少しております。しかし、県内の軽自動車保有台数は、昨年 11 月末現在で 330,155 台（対前年度比＋5,701 台（1.77%）増加）となり、県内の自動車の約 43.6%を軽自動車が占めている状況であります。また、全国では、昨年 6 月に保有台数が 3,000 万台を超えました。全国の自動車の約 40%は軽自動車が占めております。

また、軽自動車保有台数の増加とともに継続検査も増加しております。4 月～11 月期で 78,251 件、年度では 12 万件を超えており、持込検査台数が毎年増加傾向を示しているところであります。これから年度末に向けて構内が輻輳し混雑が予想されますが、構内誘導員を配置するなど混雑緩和を図って行きたいと思っておりますので、貴会会員の皆様にはご迷惑をお掛けしますが、ご理解、ご協力と計画的な受検を行って頂きますようお願いいたします。

本年も当協会は、自動車の安全確保、公害の防止等環境保全を図るため、厳正、公平な検査を行うとともに、職員一丸となって利用者に対するＣＳの向上を推進してまいりますので、今後とも皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

結びにあたり、山梨県自動車整備振興会並びに会員の皆様方の益々のご繁栄をご祈念いたしまして、新年の挨拶とさせていただきます。